

## 安全データシート

## 3-メルカプトプロピオン酸

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名	: 3-メルカプトプロピオン酸
CB番号	: CB1852730
CAS	: 107-96-0
EINECS番号	: 203-537-0
同義語	: メルカプトプロピオン酸, $\beta$ -メルカプトプロピオン酸

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: スタビライザー、酸化防止剤、触媒、化学中間体
推奨されない用途	: なし

## 会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日

H23.3.15、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7月版)を使用

## 健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分3

急性毒性(吸入:ミスト) 区分4

皮膚腐食性・刺激性 区分1

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分1

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分1(中枢神経系)

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性)

注) 上記で区分の記載がない危険有害性は政府向けガイダンス文書で規定された[分類対象外]、[区分外]または[分類できない]に該当するものであり、後述の該当項目の説明を確認する必要がある。

## 2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

## 絵表示

GHS05	GHS06

#### 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

H290 金属腐食のおそれ。

H301 飲み込むと有毒。

H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。

H332 吸入すると有害。

H401 水生生物に毒性。

#### 注意書き

#### 安全対策

P234 他の容器に移し替えないこと。

P261 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーの吸入を避けること。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

#### 応急措置

P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

P303 + P361 + P353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。

P304 + P340 + P310 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

P390 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

#### 保管

P405 施錠して保管すること。

P406 耐腐食性 / 耐腐食性内張りのある耐腐食性容器に保管すること。

#### 廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式等)	: C <sub>3</sub> H <sub>6</sub> O <sub>2</sub> S
分子量	: 106.14 g/mol
CAS番号	: 107-96-0
EC番号	: 203-537-0
化審法官報公示番号	: 2-1381
安衛法官報公示番号	: -

---

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

#### 一般的アドバイス

応急措置担当者は自分が暴露しないよう、適切な防護を行う。この安全データシートを担当医に見せる。

#### 吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。呼吸停止時はただちに人工呼吸を実施し、必要に応じて酸素も吸入する。

#### 皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師を呼ぶ。

#### 眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。ただちに眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

#### 飲み込んだ場合

飲み込んだ場合は水を飲ませる(多くても2杯)。ただちに医師の診察を受けること。1時間以内に治療が受けられないという例外的な状況のみ、嘔吐させ(相手に完全に意識のある場合のみ)、活性炭(10%懸濁液に20~40g)を投与してできるだけ早く医師の診察を受ける。中和させようとしないこと。

### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 5.1 消火剤

#### 使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

#### 適切な消火剤

水 泡 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 粉末

### 5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

硫黄酸化物

可燃性。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることがある。

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

### 5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにするこ

と。

## 5.4 詳細情報

ガス / 蒸気 / ミストを水スプレージェットで抑える（除去する）。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

---

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確保する。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

### 6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 液体吸収剤(例. Chemizorb®)で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

### 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

#### 安全取扱注意事項

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。蒸気やエアロゾルが生じないようにすること。

#### 衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

### 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

#### 保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 6.1A: 可燃性、急性毒性カテゴリー1および2 / 猛毒性危険物

#### 保管条件

金属容器禁止。密閉のこと。換気のよい場所で保管する。鍵をかけておくか、資格のあるまたは認可された人のみが入り出できる場所に入れておく。不活性ガス下に貯蔵する。

### 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理濃度

## コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

## 8.2 曝露防止

### 適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

### 保護具

#### 眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。密着性の高い安全ゴーグル

#### 皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

#### フルコンタクト

材質: ブチルゴム

最小厚: 0.3 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Butoject® (KCL 897 / Aldrich Z677647, Size M)

#### 飛沫への接触

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 57 min

試験物質: Dermatril® (KCL 740 / Aldrich Z677272, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法について許可を受けていると理解すべきではない。

#### 身体の保護

##### 保護衣

##### 呼吸用保護具

ほこり、ガス、エアロゾルの発生時に必要。次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

##### 環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

## Information on basic physicochemical properties

形状	液体
色	無色
臭い	悪臭、強く鼻を突くような臭い

18 °C : Lide (90th, 2009)

197 °C : SIDS (2009)、111 (15 mmHg) °C : Lide (90th, 2009)

>209 °C (CC) : SIDS (2009)

350 °C : GESTIS (Access on Sept. 2010)

データなし

データなし

0.0498 mmHg (25 °C) : SRC (Access on Sept. 2010)

データなし

データなし

データなし (1.218 g/cm<sup>3</sup> : Lide (90th, 2009))

1.19E+005 mg/L (25 °C est) : SRC (Access on Sept. 2010)

アルコール、ベンゼン、エーテルに可溶 : HSDB (2002)

logP=0.43 (exp) : Howard (1997)

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

### 融点・凝固点

18 °C : Lide (90th, 2009)

### 沸点、初留点及び沸騰範囲

197 °C : SIDS (2009)、111 (15 mmHg) °C : Lide (90th, 2009)

### 引火点

>209 °C (CC) : SIDS (2009)

### 自然発火温度

350 °C : GESTIS (Access on Sept. 2010)

### 燃焼性(固体、ガス)

データなし

### 爆発範囲

データなし

### 蒸気圧

0.0498 mmHg (25 °C) : SRC (Access on Sept. 2010)

## 蒸気密度

データなし

## 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

## 比重(密度)

データなし (1.218 g/cm<sup>3</sup> : Lide (90th, 2009))

## 溶解度

1.19E+005 mg/L (25 °C est) : SRC (Access on Sept. 2010)

アルコール、ベンゼン、エーテルに可溶 : HSDB (2002)

## オクタノール・水分配係数

logP=0.43 (exp) : Howard (1997)

## 分解温度

データなし

## 粘度

データなし

## 粉じん爆発下限濃度

データなし

## 最小発火エネルギー

データなし

## 体積抵抗率(導電率)

データなし

---

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる

引火点より下のおよそ15ケルビンからの範囲は危険とみなされている。

### 10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

次と激しく反応

酸化剤

還元剤

塩基

## 10.4 避けるべき条件

強力な熱

## 10.5 混触危険物質

情報なし

## 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

# 11. 有害性情報

## 急性毒性

### 経口

ラットLD50値: 120 mg/kg、50-400 mg/kg、96 mg/kg (全て、SIDS (2009))。 (GHS分類:区分3)

### 経皮

モルモットの試験で、5 mL/kg (換算値:6.09 g/kg)のばく露から死亡が見られた(SIDS (2009))。 (GHS分類:データ不足で分類できない。)

### 吸入

吸入(ガス): GHSの定義における液体である。 (GHS分類:分類対象外)

吸入(蒸気): データなし。 (GHS分類:分類できない)

吸入(ミスト): ラットLC50値: 1.818 mg/L/4hr (OECD TG403、GLP準拠)(SIDS (2009))。なお、試験は飽和蒸気圧濃度(0.284 mg/L)以上で実施されたことから、ミストの基準値で分類した。 (GHS分類:区分4)

## 皮膚腐食性・刺激性

ウサギを用いた閉塞ばく露試験で、適用後15分以内に、紅斑と浮腫を伴った壊死と葉傷を生じ、腐食性(corrosive)である(SIDS (2009))。 (GHS分類:区分1)

## 眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギを用いた試験で、適用後直ぐに角膜と結膜に重度の炎症が生じ、14日間継続した。この所見は洗浄、非洗浄両方に見られた。角膜損傷は回復せず、重度の刺激性(SIDS (2009))の記述があり、皮膚刺激性は腐食性(corrosive)である。 (GHS分類:区分1)

## 呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし。 (GHS分類:分類できない)

皮膚感作性:モルモットを用いた感作性試験で、感作性が陰性とは考えられないが、試験は最近の試験基準に合致していない(SIDS (2009))。また、皮膚感作性を評価する動物試験データはない(SIDS (2009))。 (GHS分類:データ不足で分類できない。)

## 生殖細胞変異原性

エームス試験で陰性(SIDS (2009))、マウスのリンパ腫細胞も用いた遺伝子突然変異試験で陰性(SIDS (2009))、ヒトのリンパ球を用いた染色体異常試験で陰性(SIDS (2009))。 (GHS分類:in vivo 試験のデータがなく分類できない。)

## 発がん性

データなし。 (GHS分類:分類できない)

## 生殖毒性



データなし。(GHS分類:分類できない)

#### 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

ラットの急性吸入毒性試験(用量:0.86, 1.35, and 2.053 mg/L/4h; ミスト)(OECD TG403、GLP準拠)の全てのばく露濃度(ガイダンス値の区分1~区分2に相当)で、流涎 鼻漏、鼻口の腫脹や発赤、呼吸困難、強直性痙攣、振戦などの症状が見られ、上気道刺激性及び中枢神経への影響を生じた(SIDS (2009))。(GHS分類:区分1(中枢神経系)、区分3(気道刺激性))

#### 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

データなし。(GHS分類:分類できない)

#### 吸引性呼吸器有害性

データなし。(GHS分類:分類できない)

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

#### 魚毒性

半静止試験 LC50 - Danio rerio (ゼブラフィッシュ) - 98 mg/l - 96 h

(OECD 試験ガイドライン 203)

#### ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

止水式試験 EC50 - Daphnia magna (オオミジンコ) - 9 mg/l - 48 h

#### 藻類に対する毒性

(OECD 試験ガイドライン 202)

#### 微生物毒性

止水式試験 ErC50 - Pseudokirchneriella subcapitata - 26 mg/l - 72 h

(OECD 試験ガイドライン 201)

#### 微生物毒性

止水式試験 EC50 - 活性汚泥 - 393.3 mg/l - 3 h

(OECD 試験ガイドライン 209)

### 12.2 残留性・分解性

#### 生分解性

好気性 - 曝露時間 28 d

結果: 96 % - 易分解性。

(OECD テスト ガイドライン 301A)

### 12.3 生体蓄積性

データなし

### 12.4 土壌中の移動性

データなし

### 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

## 12.6 内分泌かく乱性

データなし

## 12.7 他の有害影響

環境への放出は必ず避けなければならない。

---

# 13. 廃棄上の注意

## 13.1 廃棄物処理方法

### 製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

---

# 14. 輸送上の注意

## 14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：2922 IMDG（海上規制）：2922 IATA-DGR（航空規制）：2922

## 14.2 国連輸送名

ADR/RID（陸上規制）：CORROSIVE LIQUID, TOXIC, N.O.S. (β-メルカプトプロピオン酸)

IMDG（海上規制）：CORROSIVE LIQUID, TOXIC, N.O.S. (3-mercaptopropionic acid)

IATA-DGR（航空規制）：Corrosive liquid, toxic, n.o.s. (3-mercaptopropionic acid)

## 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：8 IMDG（海上規制）：8 (6.1) IATA-DGR（航空規制）：8

(6.1) (6.1)

## 14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：II IMDG（海上規制）：II IATA-DGR（航空規制）：II

## 14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当

非該当

## 14.6 特別の安全対策

なし

## 14.7 混触危険物質

情報なし

---

# 15. 適用法令

## 消防法

第4類引火性液体、第三石油類水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)

## 船舶安全法

腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)

## 航空法

腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

### 参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト [http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request\\_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en)

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

### 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。

